

平成24年度四国ブロック
在宅医療連携拠点事業活動発表会

在宅医療をすべての地域へ、すべての人へ！

～多死社会を迎え、在宅医療が解決の鍵になる～

平成25.2.3(日)

於：愛媛県立美術館 講堂

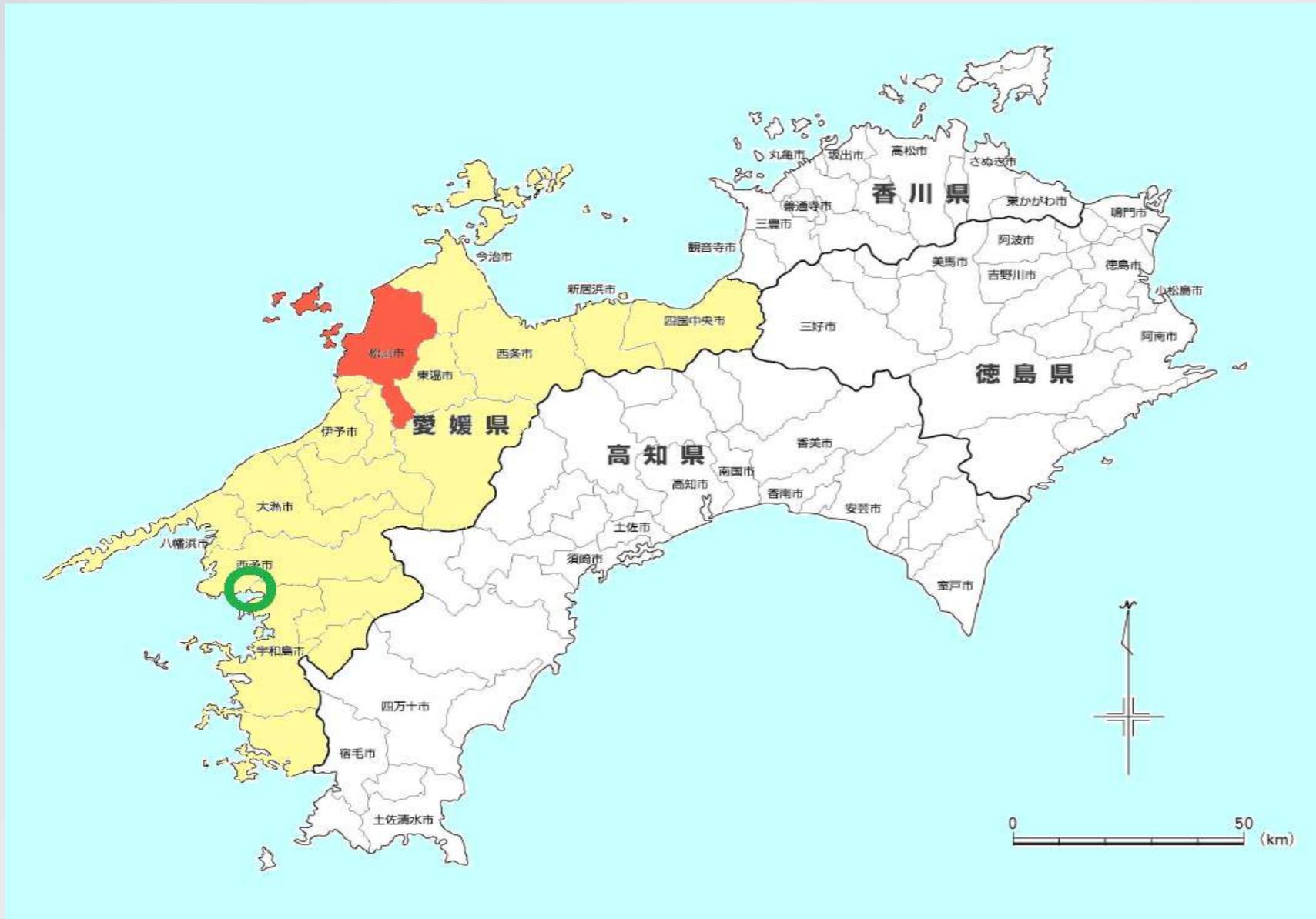
医療法人ゆうの森たんぽぽクリニック

在宅医療連携拠点たんぽぽ

○一井美哉子、松重明、塚本強
木原信吾、永井康徳



愛媛県松山市



人口：513,460人
高齢者人口：115,094
高齢化率：22.4%
(H24.4.1現在)

愛媛県：26.75%
全国：23.3%

【医療資源】

在宅療養支援診療所 87
訪問看護ステーション 36

【介護資源】

小規模多機能施設 14件
介護老人福祉施設 20件
介護老人保健施設 14件
グループホーム 110件

松山市は医療資源、介護資源の数は比較的多い地域です

事業実施主体の概要



YOU・友・優

たんぽぽクリニック
 院長 矢野博文
 副院長 亀井修

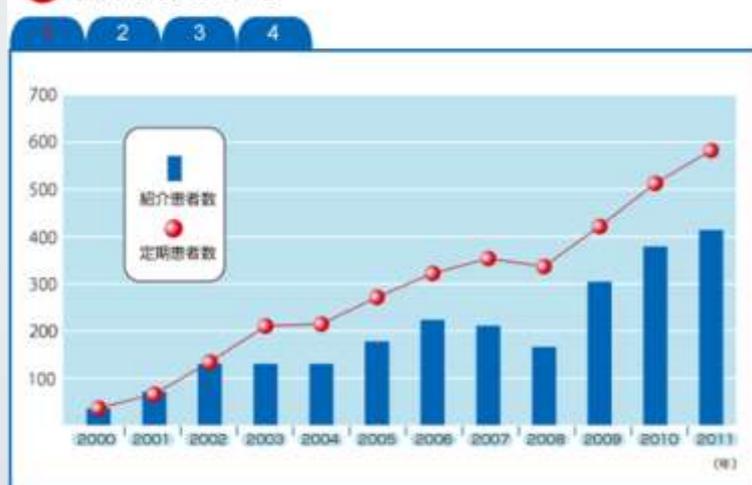
たんぽぽ道後クリニック
 ゆうの森理事長 永井康徳
 院長 森本尚史

たんぽぽ俵津診療所
 院長 永井康徳

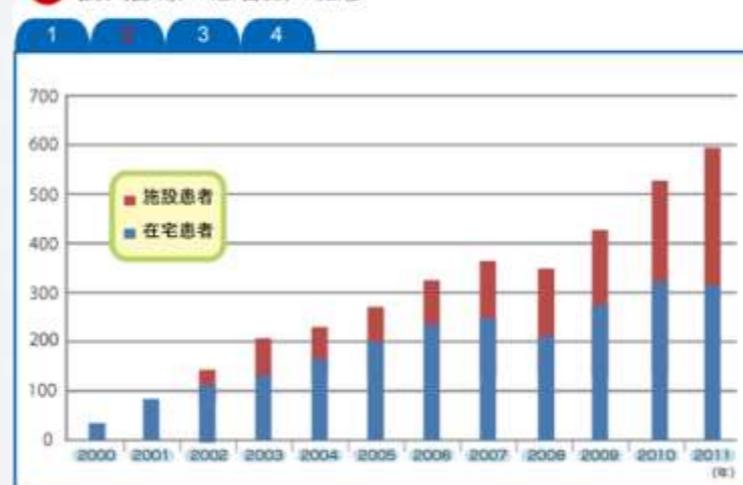
協賛医療機関:
 コスモス (4 locations), クローバ

- 在宅専門診療所（在宅療養支援診療所）
- 平成12年10月開業
- 在宅患者数 約550名（平成25年1月現在）
- 在宅看取り数 82名（平成23年実績）
- 常勤医師8名、非常勤医師3名

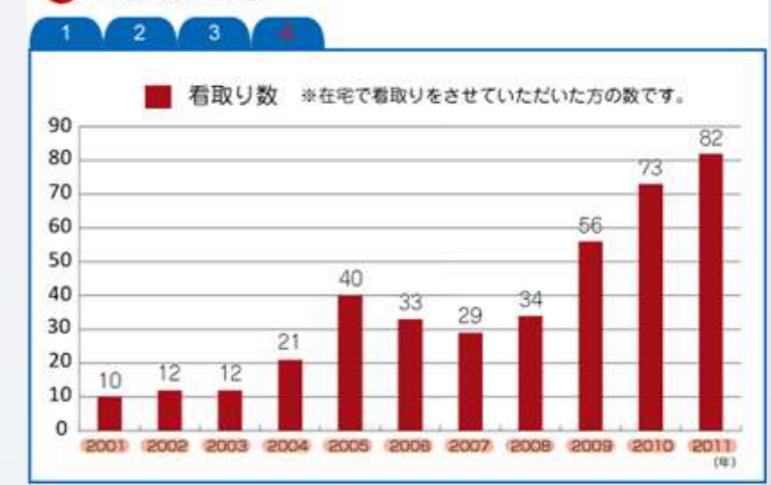
1 紹介患者数の推移



2 訪問診療の患者数の推移



4 看取り数の推移



毎朝の多地点WEB会議での情報共有と方針の統一！



毎朝、多職種で申し送りブログをみながら多地点とのWEB会議を行い、情報共有と方針の統一を図っている



在宅医療はチームでの情報共有と方針の統一が鍵



多職種の専門性を尊重し、それを活かした話し合いを行っている



ゆうの森の多職種：医師、看護師、ケアマネージャー、PT、OT、ヘルパー、
マッサージ師、事務職員等

多死社会を迎え、在宅医療は解決の鍵になる

在宅医療をすべてに！

- * 在宅医療をすべての地域に広げよう！**
- * 在宅医療をすべての人に広めよう！**
- * 在宅医療で地域に看取りを取り戻そう！**

1. 俵津プロジェクト

住民1,200人、年間赤字3,000万円で
廃止が決まった僻地診療所の再生



24時間対応で積極的な在宅医療を広域的に展開

在宅医療の充実
自宅での看取りの増加
医療費の減少



僻地診療所



在宅医療



たんぽぽ俵津診療所

経営の成立
開業4ヶ月目で経営改善



医療者の疲弊の解決



都市部の診療所



たんぽぽクリニック

循環型地域医療

(複数医師の交代制で医療従事者の疲弊の解決、教育研修機能の充実)

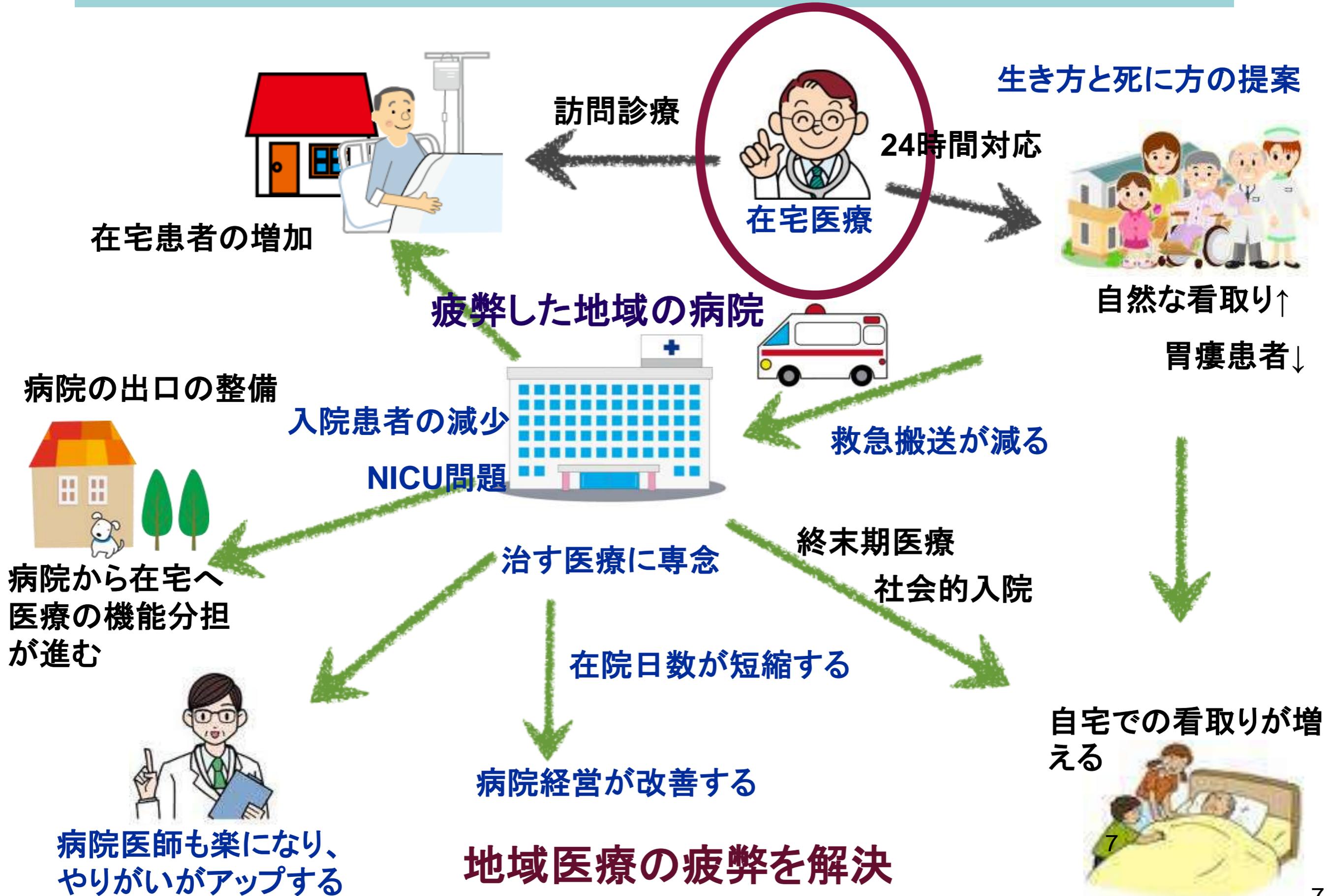
調剤薬局の併設

(院外処方による経営改善と薬担当のNSの活用)

調剤薬局



2. 在宅医療の発展が地域医療の疲弊を救う



3. 急性期病院職員への教育・研修活動



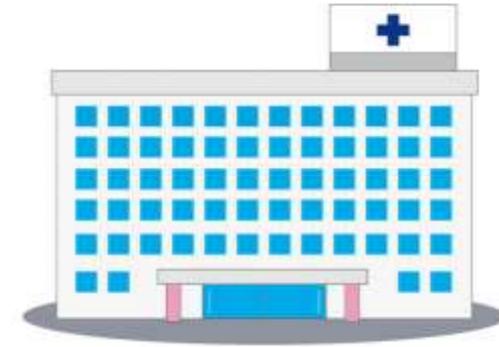
地域の在宅医や
訪問看護ステーションへ患
者を託し引き継ぐ

たんぽぽクリニック



医師、看護師が
週1回大学病院へ
勤務

愛媛大学医学部附属病院
医療福祉支援センター



連携室での
退院患者相談

病棟カンファレンスへの
定期参加と在宅医療に
関する病棟スタッフへの
講義



連携室スタッフへの
講義や養成講
習の担当

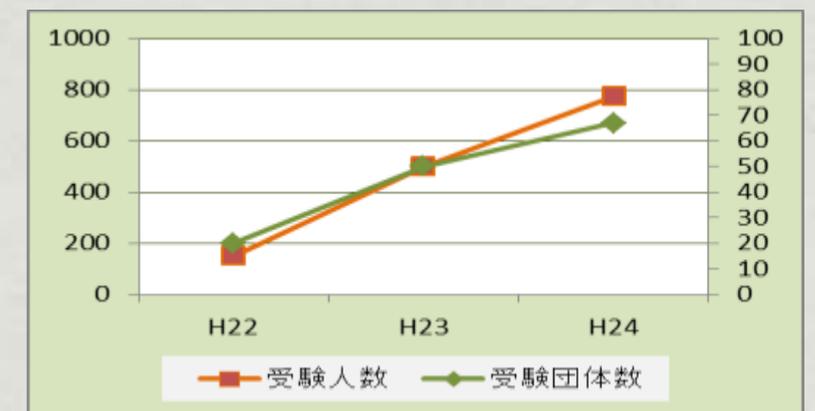
4. 全国統一在宅医療テスト

患者にとって、医療者の無知は**罪**！

在宅医療テスト

知識の普及が患者マネジメントの
質の向上と在宅医療普及につながる

公式テキスト



第3回全国統一在宅医療テスト

(平成24.10.28)

全国から受験者数773名、67団体が参加

5. 看取りのパンフレット制作

家で看取ると云うこと ～人生の旅立ちは 家族の声に包まれて～

第1部 在宅医からのメッセージ

住み慣れた家での自然な看取り

そうだ、うちに帰ろう。
住み慣れた場所に。
家族のにぎわい、家庭の匂い。
ささやかなことでも、懐かしいと感じるからこそ、
戻ることに意味があるのかもしれない。

住み慣れた家で看取るとは？

人は誰もが同じように生まれ、同じように亡くなります。
ならば、それまでどう生きるのか、そして最期をどう送るのか、
病院で最期を迎えるのが当たり前のようになった今だからこそ、
昔から自然に行われてきた自宅での看取りを、医師の立場でお話させていただきます。

医療法人社団 永井康徳

おがえりなさい

CONTENTS 目次

- ① 人はどこで亡くなるのでしょうか？現在多くの方が病院で亡くなっています。…………… P3
- ② 人が生きることを尊重し、死を早めることも、死を遅らせることもしない。…………… P5
- ③ 家に最期を迎えるのは、括れるように自然に看っていくこと。…………… P7
- ④ 自宅で看取るとは自然なこと
- ⑤ 最期の最期はご本人と家族のため
- ⑥ 素直に、やりたいように、後

第2部 看取りと向き合う時 ～それぞれの家族のものがたり～

うちに帰ると決めた。
では、実際にどうしたらいいのだろう。
すぐに帰れるのか。
誰に相談し、何をすべきか……

わからないこと、迷うこともたくさんあるでしょう。
でも、あなたは決して一人ではありません。

看取りの体験からわかること。

うちに帰ると決めたものの、その先はどうすればよいのか—
そんな時、力になってくれるのが実際に体験した方々のお話し。
まずは、そこから自宅での看取りを知りましょう。
ご本人の状況や家族の心算から、
さまざまな気づきを得ることができるはずです。

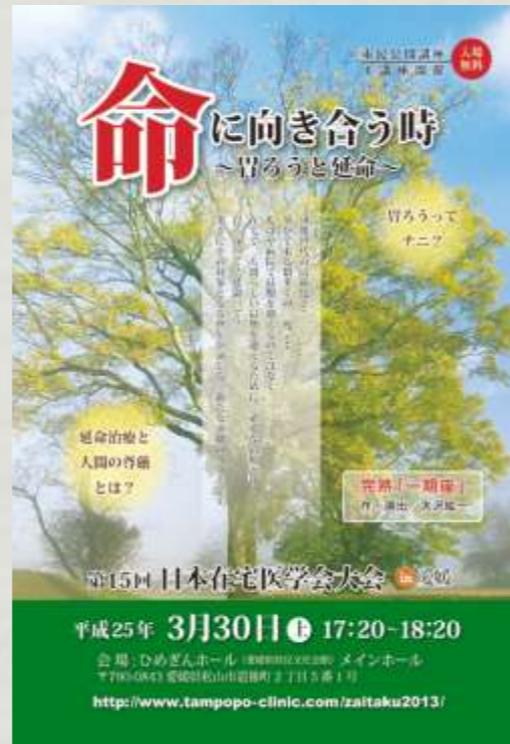
医療法人社団 永井康徳

おがえりなさい

CONTENTS 目次

- それぞれの家族のものがたり…………… P3
- いよいよ、そのときがやってきました…………… P8
- ⑦ 看取りのときが近づいてきたら……… P9
- ⑧ 残された時間がわずかになってきました……… P11
- ⑨ 旅立ちのときがやってきました……… P13

6. 演劇「命に向き合う時」～胃ろうと延命～ 市民への啓発活動



「本人がそれを望むかどうか」を考えて、治療や療養の場、看取りの場所を選択できる社会にするためにはどうすればよいのか？

第15回日本在宅医学会 市民公開講座にて上演

在宅医療をすべてに！

- ＊ 在宅医療をすべての**地域**に広げよう！
- ＊ 在宅医療をすべての**人**に広めよう！
- ＊ 在宅医療で **地域に看取り**を取り戻そう！

多死社会を迎え、在宅医療は解決の鍵になる



以上が、私達連携拠点たんぽぽの取り組みです！

Thank You